



「春の競演」 吉高の大桜

平成 28
年度版
2016

知りたい！

ひと

まち

自然

印西の環境



平成 28 年度版 印西市環境白書 概要版

千葉県
印西市



「豊作祈願」 中根の大榎

外来生物 ってなんだろう？

外来生物とは、もともと日本にいなかったのに、人間の活動によって外国から入ってきた生物のことを指します。“外来種”という言葉を見ると、海外から日本に持ち込まれた生物（国外由来の外来種）のことを表すと思われるがちです。しかし、“在来種（本来の分布域に生息・生育する生物）”でも、本来は本州以南にしか生息していない生物が北海道に入ってきた、というように日本国内のある地域から、もともといなかった地域に持ち込まれた場合にも、“外来種”となり、もともとその地域にいる生物に影響を与える場合があります。

外来生物に関する 最新の知見

- 2004 年に外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）が公布
- 千葉県内にみられる特定外来種は、平成 27 年度 3 月現在は 32 種類
- 印西市内にみられる特定外来種は、平成 27 年度 3 月現在は 12 種類

海外起源の外来生物は飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いを規制し、特定外来生物の防除等を行うこととしています。なお、規制違反内容によっては非常に重い罰則が課せられます。

外来生物の影響の例

生態系への影響

在来種を食べたり、その生息・生育環境を奪ってしまったり、さらには、近縁の在来種と交雑して雑種をつくったりすることによって、地域の生態系が破壊されたりすることがあります。



人の生命・身体への影響

毒をもっている外来生物にかまれたり、刺されたりする危険があります。



農林水産業への影響

外来生物の中には、畑を荒らしたり、漁業の対象となる生物を捕食したり、危害を加えたりするものもいます。

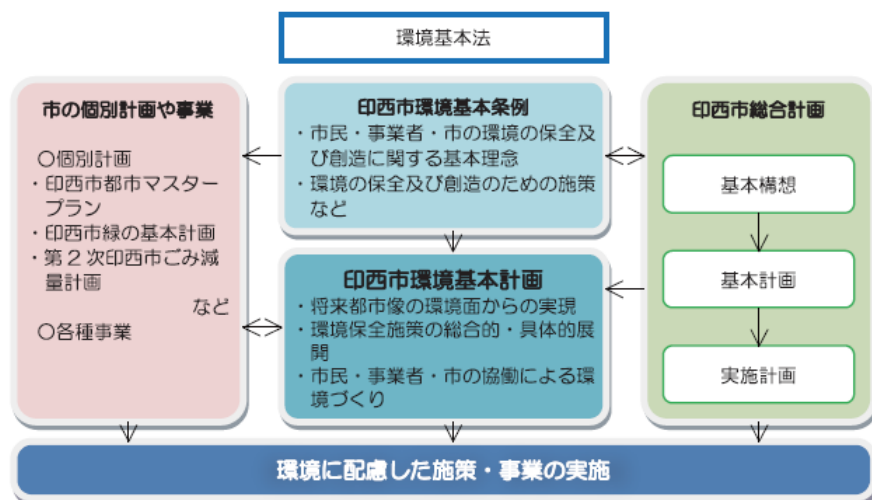


特定外来生物 駆除に取り組もう！

市では、県や周辺自治体及び関係機関と協力して、野生動植物の生息・生育環境の保全や外来種の移入防止等の取り組みを行っています。特に外来生物対策については、ホームページなどで外来生物に関する情報提供を実施しているほか、市民からの通報を防除に活用しています。平成 27 年度は、特定外来生物のカミツキガメ 289 頭、アライグマ 20 頭を捕獲しました。また、近年では野生動物による生活被害や農作物被害が増えていることから、その保護・管理も重要な課題になっています。市内における有害鳥獣の捕獲数は近年増加傾向にあり、毎年ハクビシン、タヌキ及びイノシシの捕獲を行っています。

位置づけ

印西市環境基本条例に基づき、本市の良好な環境づくりに向けての基本的な考え方、目標及び達成手段を示すもので、計画期間は平成 25 年度から平成 33 年度までの 9 年間です。



印西市が目指す「将来環境像」と、達成のための「5つの基本目標」

将来環境像

「ひと まち 自然」が調和し
豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい

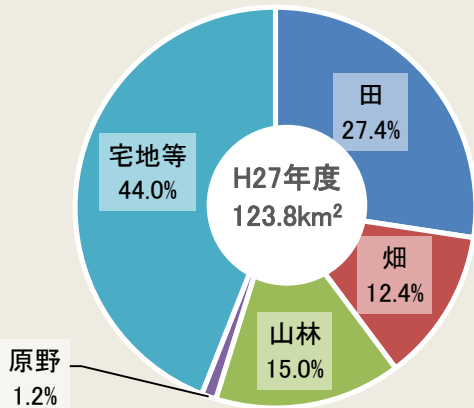
基本目標 1 〔自然環境〕	緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して	・・・2 ページ
基本目標 2 〔生活環境〕	安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して	・・・4 ページ
基本目標 3 〔都市環境〕	都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して	・・・6 ページ
基本目標 4 〔地球環境〕	低炭素社会の構築に向けた地球環境に負荷を与えないまちを目指して	・・・8 ページ
基本目標 5 〔人づくり〕	環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して	・・・10 ページ

緑や水辺が身近に感じられる、 自然と共生するまちを目指して

土地利用の状況

● 田、畑、山林、原野の割合

56.0%



印西市は農地や樹林地が多く、里山の緑に恵まれています。宅地開発や農家の後継者不足による緑の減少が心配されています。

農地の保全

農業は印西市の主要産業であり、季節ごとの田園風景は市を代表する景観を形作っています。

印西市の農産物を市内で消費する地産地消を推進するため、市内保育園の児童を対象に稲刈り体験を実施したほか、平成 27 年度はいんざい君のプリントされたのぼり旗の作成に関する補助を行い、「印西市産」農産物を PR しています。



「地産地消」を推進するため作成した「のぼり旗」 ▲

印西市の生きもの

市内には、植物 915 種、動物 838 種が確認されています。中には、絶滅が危惧されている重要な種も見つかっています。

ギンイチモンジセセリ ▶



◀ サシバ

キンラン ▶



◀ カワセミ

● 生きものの確認種数

分類群		確認種数(重要種)	
植物		915	(48)
動物	哺乳類	9	(2)
	鳥 類	95	(44)
	爬虫類	12	(10)
	両生類	6	(4)
	昆虫類	692	(45)
魚 類		24	(10)

平成 27 年度自然環境調査

< 生物多様性って何が大事なの? >

豊かな個性をもつ多様な生きものが存在すること、そしてその生きもの同士のつながりのことを「生物多様性」と言います。生物多様性は、私たち人間の暮らしとも深く関わっています。水や食料はもちろん、気候や文化まで、私たちの暮らしは、多様な生きものが関わりあう生態系からの恵みに支えられているのです。

生物多様性の 3 つのレベル

- 生態系の多様性
- 種の多様性
- 遺伝子の多様性

印西市の里山

市内には人と自然との長年の関わり合いによって形成されてきた**里山**が多く残されています。

この里山は樹林地、田畑、草地、水辺などいろいろな環境が混ざりあって、豊かな生態系を育む場としても注目されています。

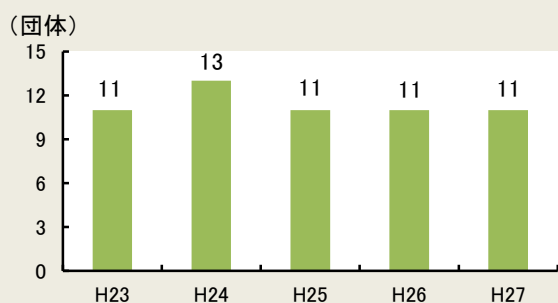


◀ 人の暮らしと
自然が調和
した風景

市では、市民参加による里山保全活動の充実を図るため、市民活動団体が実施する里山関連の行事を支援しています。

平成 27 年度の市内の里山保全活動団体数は 11 団体、里山関連イベントの開催数は 9 回でした。

● 里山保全活動団体数の推移



◀ 草深の森

自然とのふれあい

「いんざい自然探訪」は、子どもから大人まで楽しみながら環境を学ぶことができる自然観察会です。平成 27 年度は草深の森や里山などで 5 回開催し、延べ 122 人にご参加いただきました。



▲ いんざい自然探訪 少人数でじっくり里山コース

印西市は湖沼やその支流などたくさんの水辺に恵まれたまちです。

市では、水辺とのふれあいの機会を提供するため、県や流域市町と協力して水辺環境保全のためのイベントや河川の清掃活動を開催しています。印旛沼では「印旛沼流域環境・体験フェア」を実施しているほか、手賀沼では手賀沼流域フォーラム等のイベントや、市民参加による湧水調査及び水質・水生生物調査を実施し、市民の皆さんとともに良好な水辺環境の維持に努めました。



▲ 市民参加で水の中の生きものを調査しました

アクション!

緑や水辺を守り、自然と共生するために・・・

- “百聞は一見にしかず” 近くの里山や水辺に親しみます。
- 自然にやさしい有機栽培や、低農薬の農産物及び地産地消の商品を購入します。
- 生きものたちが生息している里山や生態系を知り、それらを残します。
- 家庭で飼っているペット等の生き物は最後まで面倒をみます。

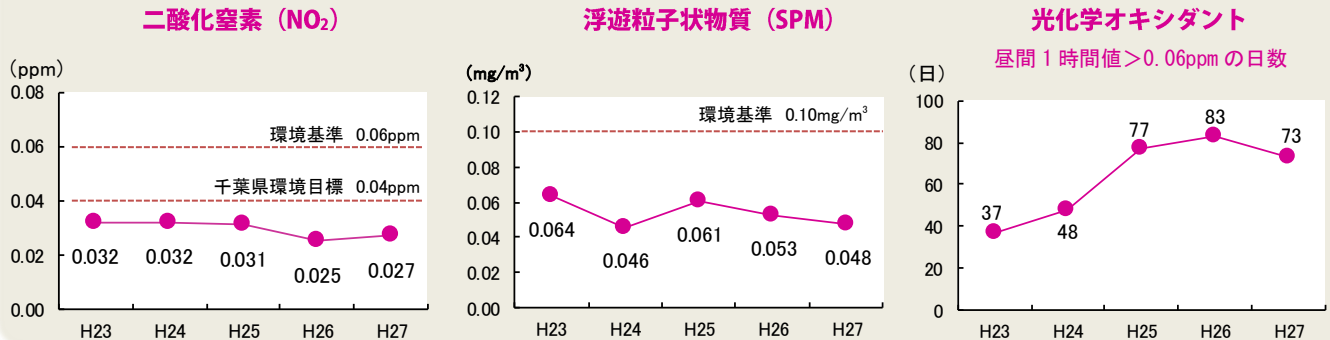


安心・安全に暮らせる、 環境に負荷を与えないまちを目指して

大気環境の保全

● 大気汚染物質濃度（高花測定局）

光化学オキシダント
環境基準超過日数 **73** 日

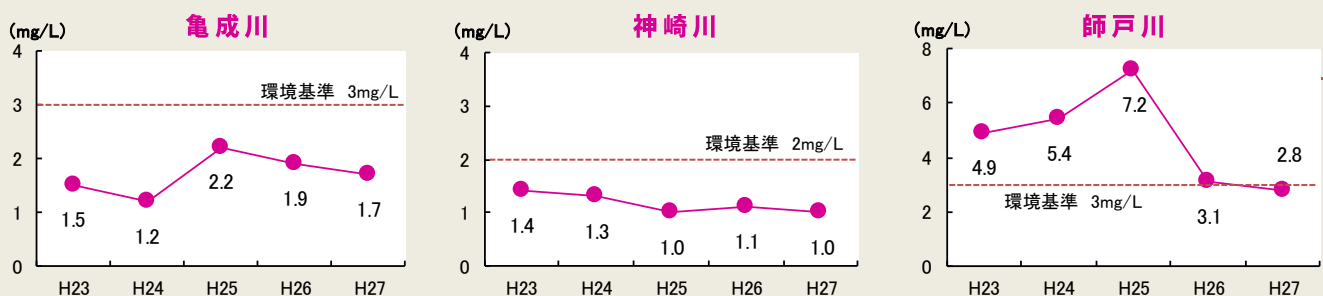


千葉県が設置する一般環境大気測定局（高花地区）では、大気質の測定を実施しています。二酸化窒素（NO₂）や浮遊粒子状物質（SPM）は継続的に環境基準を達成している一方、光化学オキシダントは環境基準を達成していません。印西地域では、平成 27 年度に 5 回の光化学スモッグ注意報が発令されました。市では大気環境を改善するため、工場・事業場への指導やエコドライブの普及に取り組んでいます。

水環境の保全

● 河川の BOD 濃度

師戸川でも環境基準を達成

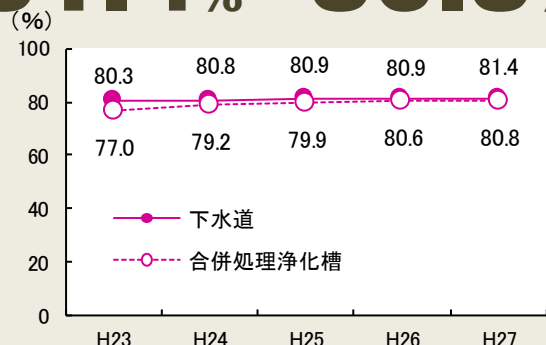


市では、市内 9 河川で年 4 回の水質測定を行っています。環境基準が設定されている 3 河川の BOD 濃度は、亀成川、神崎川では例年通り環境基準を達成しています。師戸川では平成 23 年度以降環境基準の超過が続いていましたが、平成 27 年度は 4 年ぶりに環境基準を達成しました。

皆さんの家庭からの生活排水は、水質汚染の原因の一つとなります。河川の水質を改善するために、公共下水道の整備や整備済み地区の水洗化、合併処理浄化槽の設置補助に取り組んでおり、その普及率は上昇しています。

● 下水道普及率 ● 合併処理浄化槽普及率

81.4% **80.8%**

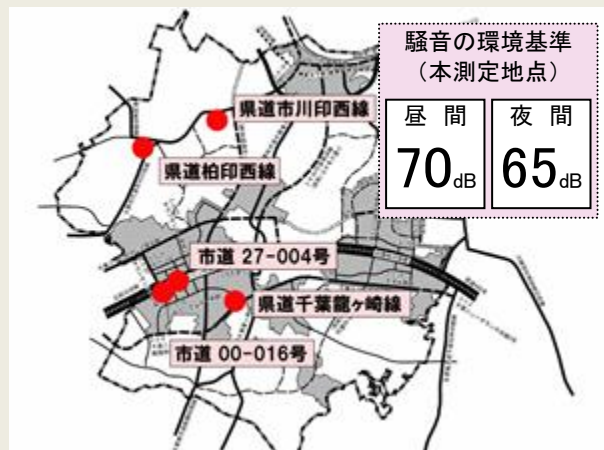


騒音・振動を防ぐ

市では、主要幹線道路において定期的に道路交通騒音の調査を実施しています。

平成 27 年度の道路交通騒音の面的評価は県道千葉龍ヶ崎線、県道市川印西線、県道柏印西線、市道 00-016 号、市道 27-004 号を対象として実施しました。その結果、全ての地点において、環境基準を達成しました。

● 道路交通騒音の測定地点



今回は環境基準値を
超えなかったよ！



印西市環境キャラクター
エコネ



▲ 定期的に空間線量率を測定しています

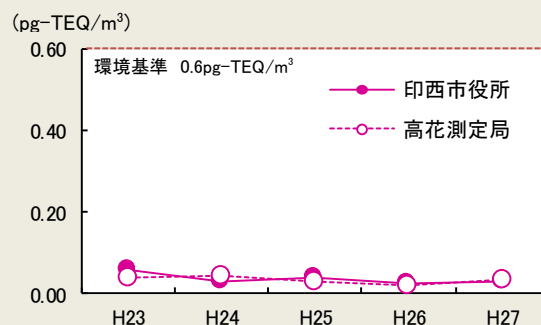
有害物質のリスク

身のまわりにどんな化学物質があるのか、またどんなリスクがあるのかを知ることは化学物質を上手に利用するために必要な知識です。例えば、殺虫剤や洗剤などは用法・用量に注意しないと、知らぬ間に体の中に有害物質を取り込んでしまう危険性があります。

市では、大気中のダイオキシン類濃度を定期的に調査しており、平成 27 年度はいずれも環境基準を達成しました。

● 大気中のダイオキシン類濃度

環境基準達成



放射性物質対策

放射性物質による環境汚染に対しては、印西市放射性物質除染実施計画に基づき、公園や民有地、道路など子どもの生活空間から優先的に除染を行っています。

また、市内の公共施設で空間線量率の測定を行い、結果を広報やホームページ等で公表しています。なお、平成 27 年度は、国が示す基準値 0.23 μ Sv/h を超える箇所はありませんでした。

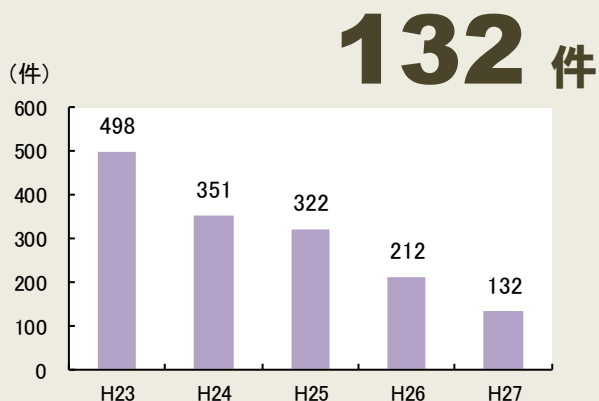
アクション！

環境に負荷を与えず、安心・安全に暮らすために・・・

- 低公害車を購入・使用するよう努め、環境にやさしい運転(エコドライブ)の実践に努めます。
- 節水を心がけるとともに、食器等を洗う際には、
油分や汚れをふき取り汚水を出さないように努めます。
- 放射線に関する正しい知識を得て、行動します。

不法投棄の状況

● 不法投棄発生件数



平成 27 年度に市が把握した不法投棄発生件数 132 件のうち、46 件は市民からの通報によるものでした。市民の皆さんによる監視の目が**不法投棄の抑止・発見**につながっています。

132 件の内訳をみると、家庭ごみが最も多く (53 件)、家電製品や自動車部品なども多くなっています。

市では、パトロールの実施や監視カメラの設置により、不法投棄の防止に努めています。

< H27 不法投棄内訳ランキング >

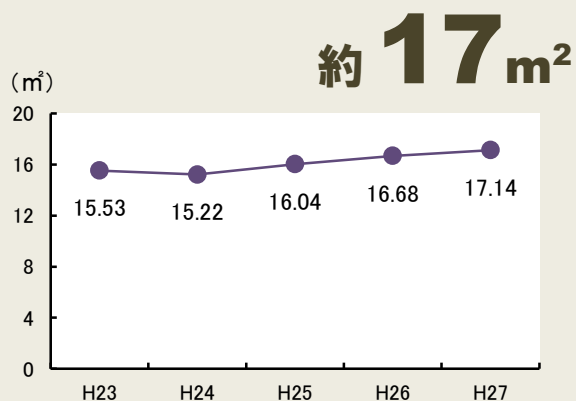
- 1 位 家庭ごみ・・・53 件
- 2 位 家電製品・・・32 件
- 3 位 自動車部品・・・14 件



▲ 不法投棄されたゴミ

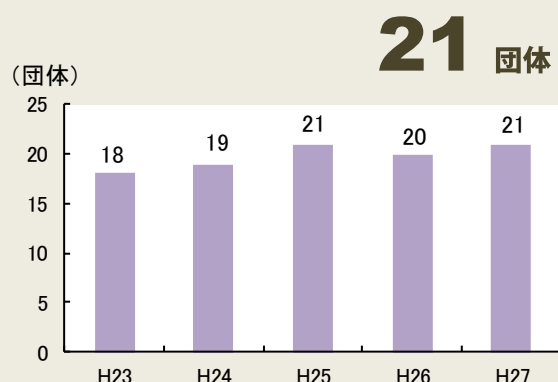
緑あふれるまち

● 1 人当たりの都市公園面積



市内には、総合公園から都市緑地まで 152 箇所の公園があります。市民 1 人当たりの都市公園面積は約 17 m² で、千葉県全体 (約 6m²)、国全体 (約 10m²) を大きく上回っています。

● 美化協定締結団体数



市では、公園美化活動を行う団体に対して、活動に必要な物品や用具を貸与・支給するなど、各種支援を実施しています。平成 27 年度の美化協定締結団体数は 21 団体となりました。

また、市民の皆さんのご家庭での緑化推進を支援するため、市の花であるコスモスの種の配布を行っています。



環境美化活動

市では、環境美化意識の高揚を図るため、市民団体や事業者と協力して「ゴミゼロ運動」、「クリーン印西推進運動」などの活動を実施しています。平成 27 年度の参加者数は延べ 106,435 人にのぼり、合計 62,360kg のごみが回収されました。

ポイ捨てをなくし、まちを美しく保つためには、一人ひとりが美化意識を向上させることが重要です。市では、重点区域での啓発や、指導員によるパトロールを実施し、禁止行為の指導件数は 2,321 件にのぼりました。



▲ ゴミゼロ運動 大人も子供もみんなでごみ拾い

歴史と文化

市では、市内の遺跡や史跡などの文化財を守るだけでなく、観光事業とも連携して地域の歴史・文化の周知に努めています。市内の指定文化財は、国指定文化財 6 件、県指定文化財 18 件、市指定文化財 25 件、登録文化財 1 件の合計 50 件となっています。

平成 27 年度は道作古墳群や泉新田大木戸野馬堀遺跡の見学会に 80 人が参加したほか、文化財の保護対策として、栄福寺薬師堂にて文化財防災訓練を実施しました（参加者 34 人）。

また、市史への理解や市史編さん事業の状況を広く伝えるため、市史編さん講演会を開催し、50 人にご参加いただきました。



▲ 道作古墳群の見学会

< 印旛歴史民俗資料館ってどんなところ？ >

印旛歴史民俗資料館は、印西市の各種歴史資料の調査研究・収集・保管・活用等の事業を通じて市民の教育、学術及び文化の発展に寄与している施設です。常設展示のほかに企画展、体験教室、講座等を行っています。



▲ 印旛歴史民俗資料館



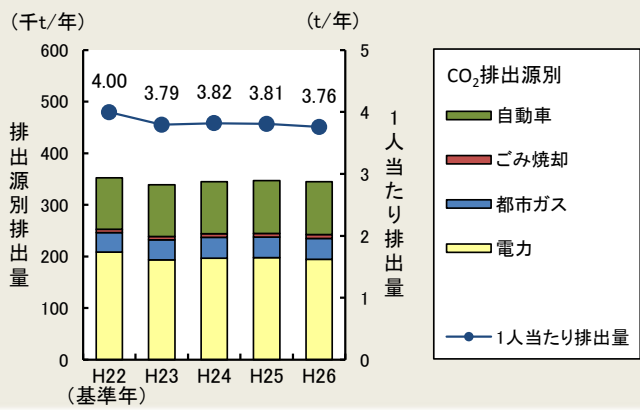
美しく、快適なまちにするために…

- ごみやたばこのポイ捨ては絶対にせず、ペットの散歩の際にフンなどは必ず持ち帰ります。
- 「ゴミゼロ運動」「クリーン印西推進運動」など地域の清掃活動に積極的に参加します。
- 地域の祭りや伝統行事に積極的に参加します。

減らそう！CO₂

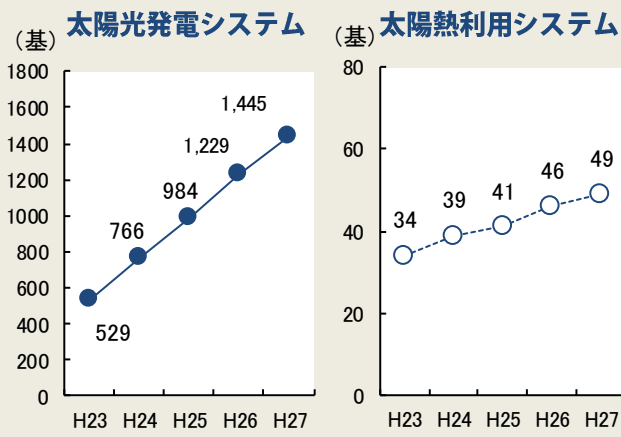
● 年間二酸化炭素（CO₂）排出量

市民 1人当たり **3.76t**



● 再生可能エネルギー設備の補助基数（累計）

1,445 基 **49 基**



平成 26 年度の印西市における二酸化炭素（CO₂）排出量は、344,803t-CO₂ で、市民一人あたりの排出量は 3.76t-CO₂ となりました。基準となる平成 22 年度と比較すると、わずかに減少しています。

● 補助対象の住宅用省エネルギー設備

設備の種類	概要
太陽光発電システム	太陽の光で発電する設備
太陽熱利用温水器	太陽の熱でお湯を作る設備
家庭用燃料電池システム（エネファーム）	水素と酸素で発電し、同時にお湯を作る設備
定置用リチウムイオン蓄電システム	電気を蓄える設備
エネルギー管理システム（HEMS）	家電や電気設備とつないで、エネルギーを管理する設備
電気自動車充電電設備	電気自動車を充電、また、電気自動車から住宅への電力供給が可能な設備

※対象となる設備には要件があります。

市では、一般家庭における再生可能エネルギーの利用を促進するため、平成 17 年度から太陽光発電システムや太陽熱利用システムの設置補助を実施しています。平成 27 年度の補助件数は、太陽光発電システム 216 件（累計 1,445 件、出力合計約 6,065kW）、太陽熱利用システム 3 件（累計 49 件）となりました。

また、平成 25 年度から省エネ設備等に補助を拡大し、家庭用燃料電池システム（エネファーム）172 件、定置用リチウムイオン蓄電池システム 22 件、エネルギー管理システム（HEMS）38 件、電気自動車充電電設備 2 件を補助しました。

市の施設では、再生可能エネルギー設備の率先的な導入を推進しており、市役所屋上などに太陽光発電システムを設置しています。牧の原小学校には 45kW の太陽光発電システムを設置しました。

公用車への低燃費車・ハイブリッド車の導入やグリーンカーテンの設置（68 施設）など、市では率先して省エネルギー化、二酸化炭素削減の取り組みを進めています。

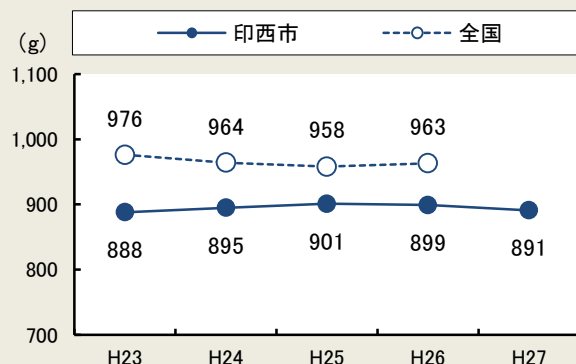
◀ グリーンカーテンコンテストの開催



印西市のごみ

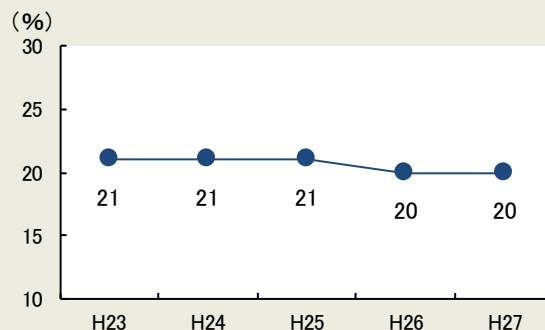
● 1人1日当たりのごみ排出量

891g



● ゴみの資源化率

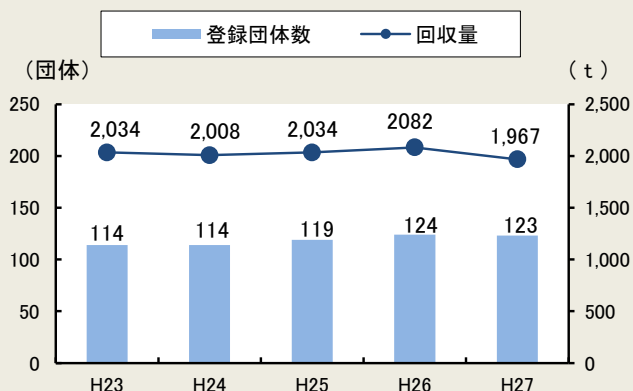
20%



平成 27 年度の 1 人 1 日当たりのごみ排出量は 891g となり、前年の 899g から 8g 減少しました。総資源化率は 20%で、平成 23 年度以降はほぼ横ばいになっています。

ごみを減らす取り組み

● 有価物集団回収登録団体数と回収量



◀ ごみ減量・リサイクルを啓発する出前講座



リサイクル施設 見学会 ▶

ごみの資源化や適正処理も重要ですが、最も優先されるべき取り組みは「ごみを出さないこと」です。市では、広報誌やホームページを通じて情報発信を行っているほか、「ごみ減量・リサイクルに関する出前講座」、「ごみは宝 リサイクル施設見学会」、「ごみの分別が大事店」などの事業を実施しました。また、平成 27 年度は講師（アルピニスト 野口健氏）を招き、3R推進シンポジウムを開催しました。

また、資源として再利用できる有価物を集団で回収している町内会や子ども会、高齢者クラブなどの団体に対する支援を実施しています。平成 27 年度の有価物集団回収の登録団体数は 123 団体、回収量は 1,967t となりました。

アクション!

地球環境を守るために・・・

- 「環境家計簿」などを通して電気ガス、水道、ガソリンなどの省エネルギーに努めます。
- 外出の際には徒歩や自転車、公共交通機関を利用するよう努めます。
- 不要な商品を購入しないように努め、商品をできる限り長く使用します。

環境配慮行動の実践者を拡大し、 みんなで環境を育てるまちを目指して

学習機会の充実



◀ 市民アカデミー
「印西市環境政策
を学ぶ」



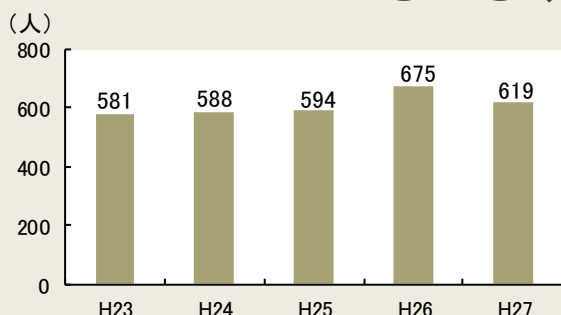
野鳥観察会 ▶

環境問題解決の第一歩は、一人ひとりが環境について学ぶことです。市では、教育センターや公民館などで里山観察会や自然散策、各種講座などを開催し、多くのご参加をいただきました。

将来の印西市を担う子供達への環境教育の推進を図るため、学校における環境教育の充実を図っています。学校支援ボランティア制度の登録数は増加傾向にあり、平成27年度は619人となりました。

● 学校支援ボランティアリスト登録数

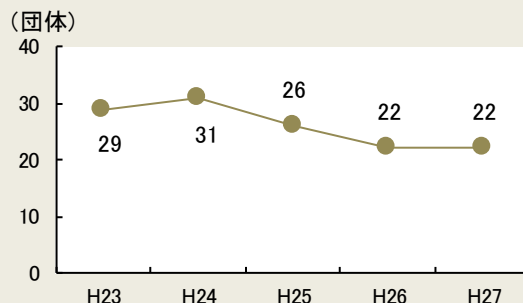
619 人



行動してみよう！

● 環境活動団体数

22 団体



市では、環境保全活動を行う NPO など市民活動団体への支援を行っています。市で把握している環境活動団体数は 22 団体となっています。

もっと！知りたい人は

「平成 28 年度版 印西市環境白書 本編」
「印西市環境基本計画」
をご覧ください。

行動してみたい人は

「印西市環境行動指針」
日常生活の中の環境配慮行動を掲載しています。
「広報いんざい」
環境に関するイベントや講座開催をお知らせ。

発行：印西市

編集：環境経済部 環境保全課

〒270-1396 千葉県印西市大森 2364-2

TEL: 0476-42-5111

<http://www.city.inzai.lg.jp/>

トップ → 暮らしの情報 → ごみ・環境・ペット

みんなで環境を育てるために・・・

- 環境に関するイベント、施設見学等に積極的に参加し、環境の現状を理解し学びます。
- 環境に関して得た情報を家庭や子どもたちと話し合い、実践につなげます。